

教鞭について

1. 教鞭（指示棒）について
 - ・ 黒板に立つ位置、身体の開き具合
 - ・ 持ち方
 - ・ 振り方（板書3年鞭8年）
 - ・ 黙読の時、音読の時
 - ・ 矢竹が一番良い

2. 自作の方法

① 矢竹の入手

矢の材料として戦国時代までに全国に移植。自生している。

ホームセンター、インターネット等で入手が難しい。

篠竹でも代用できる。（折れやすい、音が若干軽い）

② 火入れ（した方がよい）

焦がさないように

③ 切る

付く方が節になるように

長さは1尺2寸前後

④ 削る

先を丸くする

3. 購入方法

竹甚工房…1本500円（送料別）

営業時間 九時～十二時 十三時～十九時

不定休（山行き日、海行き日は休業）

住所…590-0441 大阪府泉南郡熊取町久保3-3-18

電話番号…072-452-7767

090-4762-7050 SoftBank

ホームページ：<http://takejin-koubou.jimdo.com/>

googleで「竹甚工房」で検索するとヒットする。

メールアドレス：tanaka.isao@gray.plala.or.jp

電話して、お問い合わせください。「教鞭が欲しい」ということで通じます。

鞭を使う＝子どもが考えながら読むようにさせるために。

- ・姿勢 半身に開く。黒板の方から目を離さない。
- ・からだの位置 板書が見えない子がいないように。
- ・鞭のつき始めとめ方と移り方
口をつぐむ所で押さえる。

・子どもの読みの半呼吸前を鞭が行く。

・六、とくへの「身構え」をつくるものである。

・教師の読みの深さ・力が表れる。

・教師の読みが表れるようにつく。

・教師の読みの理想を込めて振ること。

◎どんなにうるさい学級でも、これをやると静かになる。

「国語科指導の単純形態」より

(五) よむ

先ず、先生が指導を加える前に、子ども一人一人が、自分の力で、連関づけをするために読ませるのです。手引がよいと、その選ばれたことばを読んだだけで、その文章のあら筋がわかるものです。区画がよく、手引がよいと、それだけで「ああ、そういうことだなあ。」とあら筋がつかめます。そういうようなことばを選べるように御工夫願います。

さて、連関づけをしながら読むのには、一人一人が、考えながら読んでいかなければなりません。どういう子どもにも考えられるように、よくわかるようにしてやるために、まず指黙読で、ゆっくり読ませます。それから張りのある声で指音読をやらせます。五年以上の場合、一、よむに続いて順繰り読みによって頭の整理をさせるようにします。黙読をしないで順番のひとりが音読するわけです。

子ども自身いつも考えながら読むようにさせるには、先ず先生が考えながら読んでいけば、先生の読みの深さや力は、そのままムチの先にあらわれます。だから連関づけが楽にできるようになります。ムチは先生が振られたから、真似て振っているのではないのです。ムチは教師の理想をこめて振らなければなりません。

ムチを振る時に注意しなければならないことは、ムチをとったら改めて腰を立てることが大事です。子どもにだけ腰を立てなさいなどと言って、先生の腰が曲っていたのでは駄目です。腰を立てるのは、自分の身長に合わせて黒板との間隔を工夫することです。余り寄り過ぎると窮屈な姿勢になって具合がよくありません。余り離れ過ぎると前こごみになって腰が曲ります。

また注意しなければならないことは、どの子どもにも黒板の字が見えるよう

に振ることです。そうするには、からだの位置を工夫しなければなりません。少しからだを開き加減にして、子ども全体に、書いたものとムチが見えるようにしてやることです。

先師は何でも精いっぱいはその仕事に打ち込むことを教えてくださいました。ムチを振る時にはムチに専念することが大事です。子どもの顔を見ながら振る人がありますが、教師は書いたことを読ませることにひっぱっていくのだから、何といっても黒板に向き、子どもの顔は見ないでムチに専念すればよいのです。先師はムチをふつて一段落読み終るとひと休みして、「読めたか」と、にっこりしておっしゃいました。読める自信を子どもにつけるために、子どもの目を見てやられたのです。

目を見てやることで忘れてならないことは、向って右（教師からは左）の最前列の子どもたちです。先生のからだのかげにかくれて、一番迷惑な子どもたちです。この子どもにも読む恩恵に浴させなければなりません。教師のからだの開きはどうかであるか、この子どもは読んでいるだろうか、この子どもに目をかけることを怠ったら、大変相済みないことだと思います。「子どもの身になって」ということは、ひとりひとりの子どもの上を考えることなのです。どの子どもも同じように学習に参加できなかつたら教育ではないのですから、一人ももらさず学習に参加させる工夫をじゅうぶんにやってください。

姿勢が決ったら、次に黒板に当たる具合を考えてください。ムチのつき初めは、軽くもつていくのです。ところが初めから強く力んでもつていく人がいます。けんかでも始めるような荒っぽいつき方をする人です。けんかをするのではありせんから、極く軽く押さえるのです。そして余り黒板から放さないように柔らかくもつていくのです。横から見た図にするとムチの動きは次のようになります。



字一字のときは、上をつかないで下をつくのです。上をつくと間がぬけます。また、字の直ぐ近くをおさえないとおかしいものです。余り離れた所をついたのでは、しまりがなくなります。

それから、句読点でムチを止めたら、また次の頭から振り直すように持つていく人がいますが、非常にうるさいムチになります。句読点で止めたら、そこから自然に流れ出すように次へ移るのです。

ムチで一番大事なことは、自分の精いっぱい読みをこのムチに表現するのだという心構えです。ですから、根本は文章をしっかりと読むことです。文章をよく読んで、しっかりとついで、その自分の精いっぱいの読みをこのムチに表わすのです。オーケストラのタクトと同じことなのです。五年生以上は、一人で読ませますからムチは使いません。

「恵雨語録」より

小四以下の斉音読は、鞭で指揮する必要があります。鞭は一尺二寸内外、矢程の太さの竹が一番よろしい。持つ所に節の要はありませんが、鞭の先は節になっいて、それが丸めて削ってあれば最もよろしい。全国をまわって見ると、鞭のない学校があります。鞭はあっても、三尺有余の太いもので、取廻しのかぬものがあります。黒板にびったりとついて間の少しも抜けない鞭を持ち得るには、小一年の修行を要しましょう。

教式の情報

インターネット上に教式の情報を載せています。是非ご覧いただきたいと思
います。

ホームページ

いずみ会公式HP <http://izumikai100.web.fc2.com/>

「どの子ども落ち着く国語指導」で検索

芦田教式 <http://www.kyousiki.com/>

「芦田教式のホームページ」で検索

YouTube

「国語教壇修養会」で検索

動画を98本公開しています。

Twitter について

いずみ会広報部 [@kyousiki2](https://twitter.com/kyousiki2) <https://twitter.com/kyousiki2>

教式 Bot [@KyousikiBot](https://twitter.com/KyousikiBot) <https://twitter.com/KyousikiBot>